

音楽芸能スタッフ科 音楽スタッフ総合コース
1 年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	一般教養 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
講義	舞台知識 I	68	2	4
講義	P C 知識 I	68	2	4
演習	企画制作基礎 I	68	2	4
演習	企画制作応用 I	68	2	4
実習	イクイップメント I	68	2	2
演習	スタッフワーク基礎 I	68	2	4
演習	スタッフワーク応用 I	68	2	4
実習	P A 基礎 I	68	2	2
実習	照明 I	68	2	2
講義	業界知識 I	72	2	4
合計		888	26	44

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
①企業に就職するために必要な一般教養としての知識とスキルを身に付ける。 ②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。 ③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。							
到達目標							
・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け、自身の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようになる。 ・身だしなみや挨拶の仕方、正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールの書き方など、ビジネスマナーの知識を身に着ける。 ・就職活動の際に必要な履歴書及びエントリーシートの作成ができるようになる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・自分の第一印象は？、信頼印象力、自己分析 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 4～7回目	・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ ・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語、自己紹介文作成)
【前期】 8～10回目	・コミュニケーション(グループコンサルティング) ・電話対応(かけ方、受け方、取り次ぎ方)
【前期】 11～13回目	・ビジネスメール ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 14～17回目	■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 18～20回目	・キャリアビジョン(自己分析) ・企業研究、自己PR、志望動機作成 ・感情のコントロール
【後期】 21～24回目	・履歴書作成 ・エントリーシート作成 ・面接練習(個人、グループディスカッション)
【後期】 25～27回目	・一般常識、SPI対策 ・名刺交換 ・冠婚葬祭マナー
【後期】 28～30回目	・面接対策 ・履歴書写真撮影、メイク ・食事のマナー
【後期】 31～34回目	■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ること、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいのかについて考え、自己成長につなげて行きましょう。 また、社会人として必要なビジネスマナーや一般常識も学んでいきます。自分のキャリアを考える一年にしていましょう。
備考	授業ごとに講師が準備した教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
授業概要					
①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。 ②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。					
到達目標					
・数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、実際に現場で演者が目指すであろう音楽像を様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や技術提供ができる人物になる。 そして音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。					
・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 4～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～10回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 11～13回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 21～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知ることとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料データを共有

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	舞台知識Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	山口県・福岡県を中心に、音響オペレーターとしてブライダルをはじめ各種イベントや式典などの音響業務を担当。学生時代は電気科に所属、機材の設営を伴う現場では当時学んだ電気の知識を現在の業務に活かし活動。これらの経験を活かし、現場に役立つ知識を教授する。						
授業概要							
音楽・芸能・舞踏その他における、電気・舞台の基本知識と応用を身に付ける。華やかな演者の表舞台を裏から支えるスタッフの重要性を学ぶ。							
到達目標							
・様々な音響照明舞台現場に於ける一般常識やエンターテインメント業界の裏側の一般的な知識を身に付け、校外現場にも対応し社会人・業界人として活躍出来るよう学習する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	劇場舞台に関しての講義①:社会の中での芸能とホール の存在意義・日本の公立劇場とホールについて
【前期】 4～7回目	劇場舞台に関しての講義②:欧州のホール の歴史、構造と文化的背景・ホール、劇場の性能と機能について
【前期】 8～10回目	劇場舞台に関しての講義③:文化芸術政策と劇場ホールについて
【前期】 11～13回目	劇場舞台に関しての講義④:劇場・音楽堂 その設備と運用について
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	電気・電流に関しての講義①:電気とは?・感電の恐怖及び対策について
【後期】 21～24回目	電気・電流に関しての講義②:電気極性・電流・電圧・抵抗／電源計
【後期】 25～27回目	電気・電流に関しての講義③:劇場舞台での電源の取り方。
【後期】 28～30回目	電気・電流に関しての講義④:劇場舞台照明電源について。
【後期】 31～34回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	舞台やイベントの現場では電気の知識や舞台の仕組みを理解しておくことがとても重要です。特に電気は正しい知識を持っていないと事故やケガにも繋がります。どんな現場でも必要となる知識なので、しっかり勉強しておけば将来必ず役に立ちます。一緒に頑張りましょう。
備考	教材として「舞台技術の共通基礎」を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラル、個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的などの情報リテラシーからWord/Excel/PowerPointなどの基礎的なオフィスソフトの使い方を理解して就職後に必要な最低限の技術を身に付ける。					
到達目標					
・情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任および情報モラルについて理解する。 ・情報技術が人や社会にはたす役割と及ぼす影響について理解する。 ・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	著作権、肖像権等について/スピード検定を使ってキー入力を習得・Wordで案内状の作成
【前期】 4～7回目	知的財産権について/Excelの基本を学ぶ
【前期】 8～10回目	デジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 11～13回目	音のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 14～17回目	画像のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【後期】 18～20回目	動画のデジタル化について/情報処理検定試験を使ってExcelの知識を深める
【後期】 21～24回目	ネットワークについて/情報処理検定試験を使ってExcelの知識を深める
【後期】 25～27回目	TCP/IPについて/HTMLを使ってホームページを作成
【後期】 28～30回目	データの圧縮について/PowerPointを実習する
【後期】 31～34回目	データの暗号化について/PowerPointを実習する
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験と実技での作品により「平常点 /意欲 /PC操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、ビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。これを使いこなすことは、仕事をする上で欠かせない技能になります。さらに、シンギュラリティを迎える20年後において、コンピュータの基礎基本を学ぶことは、それに順応できる力となります。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	企画制作Ⅰ-β		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	企画制作基礎Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 音楽スタッフ総合					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■ 非該当 □
担当講師 実務経歴	米国広報プログラムによりニューヨークにおいて'92年プロデュース研修。東京や福岡でコンサート、演劇やファッションショーなどの企画、制作やプロデュースを数多く手掛ける。大手プロダクションにおいて福岡のダンスヴォーカルユニット、モデルや俳優の育成からマネージメントまで幅広く活動中。 上記の経験を活かし企画制作における実践指導を行う。					
授業概要						
①音響、照明、ローディーチームを意見交換することで、その専門性を活かし、また制作陣の納得と観客の感動が、同一価値観で結びつく内容を企画する。 ②創作側、演者側の心情まで授業を通じて迫り、今後のアーティストを支える制作業務として大きな経験を積む。						
到達目標						
・イメージする内容を、白紙から創造、具現化する道程の困難さと、喜びを体感し、その作品が、高品質なエンターテインメントであるということを学ぶ。 ・音響、照明、ローディー、マネージャーなどと共同による白紙からの企画制作、制作側から演者側に内容を提案、制作陣が強い結束するためのフィールドワークとプロセス重視、出来上がった作品の完成度2グループによる企画、構成、演出を経験する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イベントの基礎知識。
【前期】 4～7回目	前期企画イベントのアーティスト選定。
【前期】 8～10回目	アーティスト～交渉、クラス内の体制作り。予算作成、概要作成、時系列作成、広報資料作成。
【前期】 11～13回目	イベント当日に向け、イベント内容を吟味し、台本等資料作成。出演者資料作成。制作(音響、照明)チームへの連絡。
【前期】 14～17回目	■前期試験:プレゼンテーションによる実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期企画イベント終了を受けて検証。
【後期】 21～24回目	後期企画イベントのアーティスト選定。
【後期】 25～27回目	アーティスト～交渉、クラス内の体制作り。予算作成、概要作成、時系列作成、広報資料作成。
【後期】 28～30回目	イベント当日に向け、イベント内容を吟味し、台本等資料作成。出演者資料作成。制作(音響、照明)チームへの連絡。
【後期】 31～34回目	■後期試験:プレゼンテーションによる実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	大胆な発想の企画を具現化する為には、周囲の賛同とともに多大なエネルギーを必要とするが、粘り強く考え、会話し、前進することで、実現可能という経験を身につけることができます。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	企画制作Ⅰ-β		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	企画制作応用Ⅰ		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 音楽スタッフ総合						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	米国広報プログラムによりニューヨークにおいて'92年プロデュース研修。東京や福岡でコンサート、演劇やファッションショーなどの企画、制作やプロデュースを数多く手掛ける。大手プロダクションにおいて福岡のダンスヴォーカルユニット、モデルや俳優の育成からマネージメントまで幅広く活動中。 上記の経験を活かし企画制作における実践指導を行う。						
授業概要							
①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、計画立案、タイムスケジュール作成、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養う。 ②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。 ※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施							
到達目標							
・イメージする内容を、白紙から創造、具現化する道程の困難さと、喜びを体感し、その作品が、高品質なエンターテインメントであるということを学ぶ。 ・音響、照明、ローディー、マネージャーなどと共同による白紙からの企画制作、制作側から演者側に内容を提案、制作陣が強い結束するためのフィールドワークとプロセス重視、出来上がった作品の完成度2グループによる企画、構成、演出を経験する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イベントの基礎知識。
【前期】 4～7回目	前期企画イベントのアーティスト選定。
【前期】 8～10回目	アーティスト～交渉、クラス内の体制作り。予算作成、概要作成、時系列作成、広報資料作成。
【前期】 11～13回目	イベント当日に向け、イベント内容を吟味し、台本等資料作成。出演者資料作成。制作(音響、照明)チームへの連絡。
【前期】 14～17回目	■前期試験:プレゼンテーションによる実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期企画イベント終了を受けて検証。
【後期】 21～24回目	後期企画イベントのアーティスト選定。
【後期】 25～27回目	アーティスト～交渉、クラス内の体制作り。予算作成、概要作成、時系列作成、広報資料作成。
【後期】 28～30回目	イベント当日に向け、イベント内容を吟味し、台本等資料作成。出演者資料作成。制作(音響、照明)チームへの連絡。
【後期】 31～34回目	■後期試験:プレゼンテーションによる実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	大胆な発想の企画を具現化する為には、周囲の賛同とともに多大なエネルギーを必要とするが、粘り強く考え、会話し、前進することで、実現可能という経験を身につけることができます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ステージシステムⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメントⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ステージ総合/音楽スタッフ総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	①福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディング、PAオペレート業務に従事。楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。 ②株式会社LILEON代表取締役。Tリーグ開幕シリーズ/ファイナルシリーズの照明デザインオペレートや、福岡よしもと新劇場における照明プランニング及び照明オペレート/音響オペレート/舞台監督を担当。				
授業概要					
①アナログ、デジタル音響卓の操作。 ②ミキシングコンソールやスピーカーをはじめ、その他周辺機器の知識/取り扱いを学び、音響システムの仕組みを理解する。 ③電源ユニット、調光卓、灯体やその他周辺機器の安全かつ正しい取り扱い方法を学ぶ。総合的に照明のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上にも反映していく。					
到達目標					
・音響のシステムを学び、色々な視点から仕組みを理解していきます。実際に音響機材に触れ、構造や用途・特徴などを学ぶ。 ・実技授業や実際の現場の際に、的確なセッティング・状況に応じた機材選びやマイキングなどがスムーズに行うことができるよう学ぶ。 ・様々な機材との組み合わせや、毎回違う現場に対応できるよう機材の特性・しくみを理解する。 ・電源ユニット、調光卓、灯体やその他周辺機器の安全かつ正しい取り扱い方法を学ぶ。総合的に照明のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上にも反映していく。					

【前期】 1～3回目	学校機材の説明、電源の説明。
【前期】 4～7回目	ムービングライトを中心にした機能の学習。
【前期】 8～10回目	照明全般のシステムを理解する。
【前期】 11～13回目	スモークマシンなど照明効果の為のアイテムの説明。
【前期】 14～17回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	マイク・D.I.のブランド名、種類、構造、ケーブル等の種類、構造、巻き方を理解する。 アナログミキサーを使用した簡易PAシステムの構築、音声信号の伝送方式を学ぶ。
【後期】 21～24回目	アナログ機器を使用したPAシステムの応用(空間系エフェクターやダイナミクスエフェクター) スピーカーのチューニング、ハウリングに対しての対応を学ぶ。
【後期】 25～27回目	デジタルミキサーを使用したPAシステムの構築。
【後期】 28～30回目	デジタル機器を使用したPAシステムの応用 各マイクの特徴、楽器に対するマイキングなどの理解を深める。
【後期】 31～34回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	照明の知識を習得することで自分自身のイメージを照明を通じて表現できるようになり、豊かな感性とデザイン力を養うことができます。 PAから照明まで機材を中心に知識を深めて自分の技術に活かしましょう！
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	スタッフワーク基礎Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	大手ライブハウスのステージマネージャーを経て、福岡にある自身のイベント会社にてステージマネジメントやプロデュース業務をメインとし、イベント制作や企画などのサービスを行う。						
授業概要							
①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、計画立案、タイムスケジュール作成、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養う。 ②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。							
到達目標							
・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。 ・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識。
【前期】 4～7回目	制作スタッフの立ち位置、ローディー、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 8～10回目	4バンド程度の実習、タイムスケジュール作成、進行、舞台監督など。
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの回収、各オペレーターに依頼、打ち合わせ。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2バンドのタイムスケジュール作成、進行、舞台監督など。
【後期】 21～24回目	授業内で行った実習に対して反省及び改善。
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。(機材トラブル等)
【後期】 28～30回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとにタイムスケジュール作成、進行、舞台監督、撤収作業など。
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、計画立案、タイムスケジュール作成、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク応用 I		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	スタッフワーク応用 I	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	大手ライブハウスのステージマネージャーを経て、福岡にある自身のイベント会社にてステージマネジメントやプロデュース業務をメインとし、イベント制作や企画などのサービスを行う。						
授業概要							
①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、計画立案、タイムスケジュール作成、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養う。 ②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。 ※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施							
到達目標							
・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。 ・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識。
【前期】 4～7回目	制作スタッフの立ち位置、ローディー、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 8～10回目	4バンド程度の実習、タイムスケジュール作成、進行、舞台監督など。
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの回収、各オペレーターに依頼、打ち合わせ。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2バンドのタイムスケジュール作成、進行、舞台監督など。
【後期】 21～24回目	授業内で行った実習に対して反省及び改善。
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。(機材トラブル等)
【後期】 28～30回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとにタイムスケジュール作成、進行、舞台監督、撤収作業など。
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力 / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、計画立案、タイムスケジュール作成、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレートⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ステージ総合/音楽スタッフ総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。				
授業概要					
①アナログの音響卓の操作。 ②ゲインの取り方、イコライジングの考え方及び操作。 ③メインスピーカー、モニタースピーカーの設置及びチューニング。					
到達目標					
・音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。 ・スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。 ・音楽事業を総合的に捉え理解する事で、現場に置いて総合的な目線での現場感覚を培うことを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	8の字巻、マイクスタンドの立て方、スピーカースタンドの立て方。 音響卓のゲインのとり方、イコライジングの仕方。(考え方) PAスピーカーの組み方、音響卓～アンプ～スピーカーのつなぎ方及びGEQチューニング。
【前期】 4～7回目	バンドセットの実習を意識したマイキング、メインスピーカー(モニタースピーカー)のチューニング。 ダンスボーカル系のワイヤレスマイクの設置、メインスピーカー(モニタースピーカー)の設置及びチューニング。 ドラム周りのマイクのチョイス及びマイキング。
【前期】 8～10回目	PRE/POSTの説明、使い分けの考え方。 マルチボックス(16ch,32ch)マルチケーブルを用いてのINPUT/OUTPUTの接続。 バンドセットのライブ実習での実務経験。
【前期】 11～13回目	バンドセットのライブ実習での実務経験。 イベント時のPAセッティングの設置及びチューニング。 様々なPA機会でのスピーカー、マイクのチョイス。
【前期】 14～17回目	モニタースピーカー4系統によるバンドセットのライブ実習。前期試験準備。 ■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	モニター卓の仕込み方の説明及び設置～チューニング。(ハウリングチェック) 分岐にて仕込み～実務経験。 デジタル音響卓の説明①(ゲイン、EQ等)
【後期】 21～24回目	デジタル音響卓の説明②(ダイナミクス等) デジタル音響卓を用いての仕込み～音出し。 デジタル音響卓を用いてのライブ実習。
【後期】 25～27回目	デジタル音響卓の説明③～⑥(AUX、MATRIX等) バンドセットのPA業務。(デジタル卓) これまでの復習。
【後期】 28～30回目	デジタル音響卓の質疑応答。 ライブ実習。(デジタル音響卓) これまでの復習。
【後期】 31～34回目	調整日。(まだ理解できていない事柄について説明) ■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログの音響卓で基礎をしっかりと学習していただきます。後期からはデジタルの音響卓を用いての授業が増えますが、アナログで培ったノウハウを生かして2年に昇級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
使用教科書	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	照明オペレートⅠ-β		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	照明Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ステージ総合/音楽スタッフ総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡で照明家として活動中。株式会社LILEON代表取締役。近年では、Tリーグ開幕シリーズ/ファイナルシリーズの照明デザインオペレート、福岡発アイドルグループ「LinQ」の専属照明オペレーターや、福岡よしもと新劇場における照明プランニング及び照明オペレート/音響オペレート/舞台監督を担当。 上記の経験を活かし照明オペレートを中心とした実技を行う。				
授業概要					
①電源の入れ方やパッチの手順などの基本操作、並びにチェイスやストロボなど様々な機能を学び、メインコンソールのオペレート技術を身につける。 ②ピンスポットオペレーターやムービングスポットオペレーターとしての技術も同時に学んでいく。 ③最新式の照明コントローラを使用してムービングライトを含めた様々な照明機材の操作方法のレクチャー、ピンスポットの操作方法を繰り返し訓練する。					
到達目標					
・学内の授業だけではなく、学外のコンサートやイベントにおける照明スタッフとしての動きや舞台構造を説明して、より照明スタッフとしての幅広い知識を習得する。 ・楽曲のムード、演出意図を理解してそれを具現化出来るようなデザイン能力、操作能力を身につける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	照明機材と、その使用方法の説明①
【前期】 4～7回目	照明機材と、その使用方法の説明②
【前期】 8～10回目	ピンスポットの使用方法、キューに反応できるスキルの習得。
【前期】 11～13回目	照明キューの解説。(理解から使用方法まで)
【前期】 14～17回目	■前期試験: 前期の授業内容からの筆記試験を実施。内容を理解しているかを問う。
【後期】 18～20回目	照明コントローラーの基本的な使用方法。
【後期】 21～24回目	照明の方向性とビームのコンビネーション。
【後期】 25～27回目	サンプル曲を使った照明キューの作成①
【後期】 28～30回目	サンプル曲を使った照明キューの作成②
【後期】 31～34回目	■後期試験: 実技試験を実施。課題を設定して、指示通りに照明コンソールを操作できるかの確認。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	メインコンソールのオペレート技術を習得することで自分自身のイメージを照明を通じて表現できるようになり、豊かな感性とデザイン力を養うことができます。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。							
到達目標							
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。							
後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。